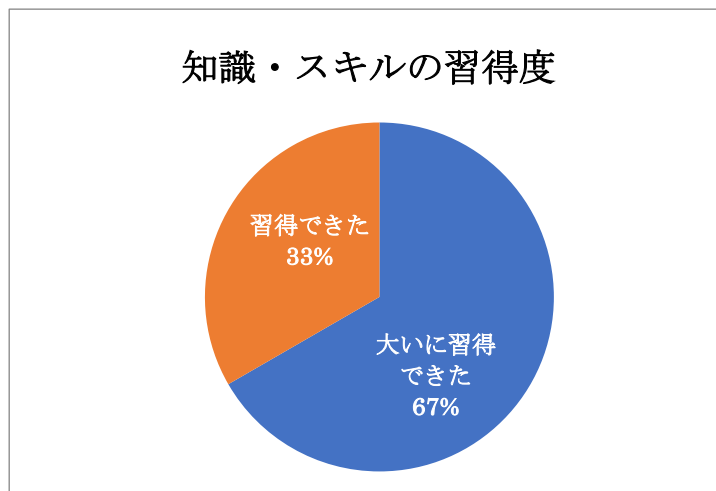


平成 31 年度 グローバル産業人材育成事業 海外専門家等招へい アンケート結果

専門家等招へいを行った企業の担当者を対象に、研修者の研修効果と企業の海外展開の進捗度合について質問を行った。なお、コメントはアンケート回答から一部抜粋し記載している。

①知識・スキル・ノウハウの習得度

大いに習得できた	4
習得できた	2
あまり習得できなかった	0
全く習得できなかった	0

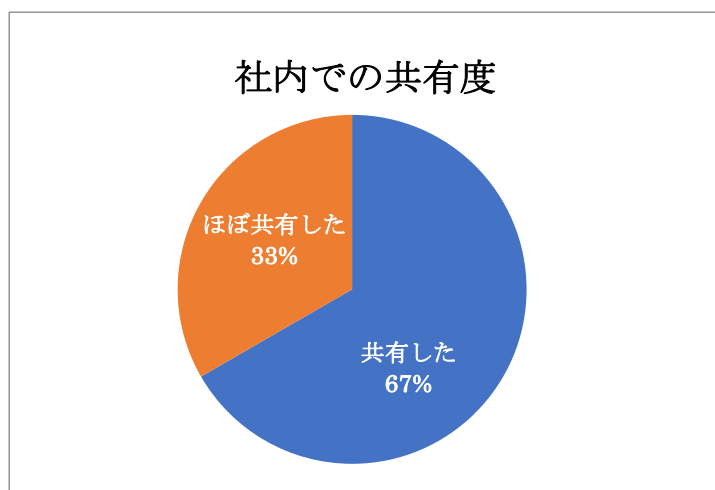


<習得できたこと>

- 様々な技術やまったく知らなかった知識をたくさん習得出来た。フィールドワークで具体的に指導を受けたことで、今までの苦労の原因が分かった。
- 海外の目線から、沖縄の強み、弱みを理解でき、今後のアプローチの仕方に大いにためになった。また弊社1社だけでなく、同業他社とも協力しながらのプログラムだったため、横のつながりもでき、今後のイベントの体制づくりにもつながられる。
- 所作・立ち居振る舞い1つ1つの意味が理解でき、その意味を説明出来るようになった。
- 専門家に解説、直接指導を行っていただいたことで、現場にとって大きな問題解決に繋がった。

②社内での共有度

共有した	4
ほぼ共有した	2
少しだけ共有した	0
共有しなかった	0
これから共有する	0



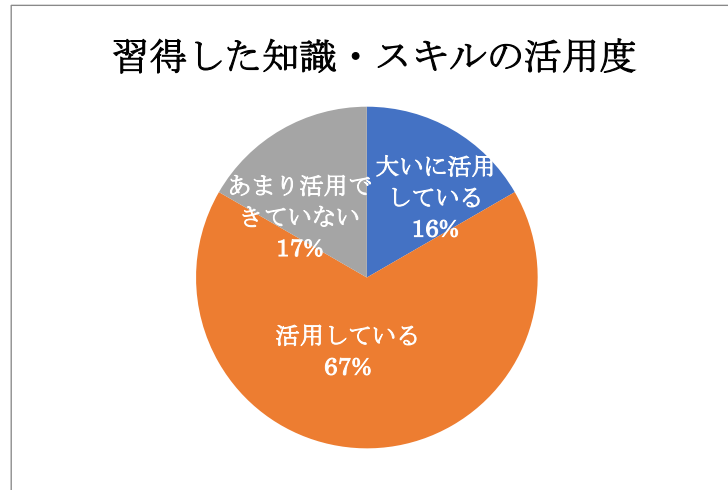
<共有したこと>

- 議事録を作成し、資料もすべて保管しているので、だれでもすぐに手に取り資料を熟読することができる。また、研修終了後の翌日にはスタッフミーティングを開催し、今回の3日間の研修プログラムで得た知識・内容をスタッフ全員で共有した。
- 技術は、簡単に人に共有できるものではないので、スタッフ全員が講習を受けられて良かった。

- ◆ 社内回覧、GM への報告。
- ◆ 直接の提携先のスキルアップだけではなく、協力機関等の方にも研修会に参加していただいたので、幅広く、知識共有できるようになった。また、必要な資料等も共有している。

③習得した知識・スキルの活用度

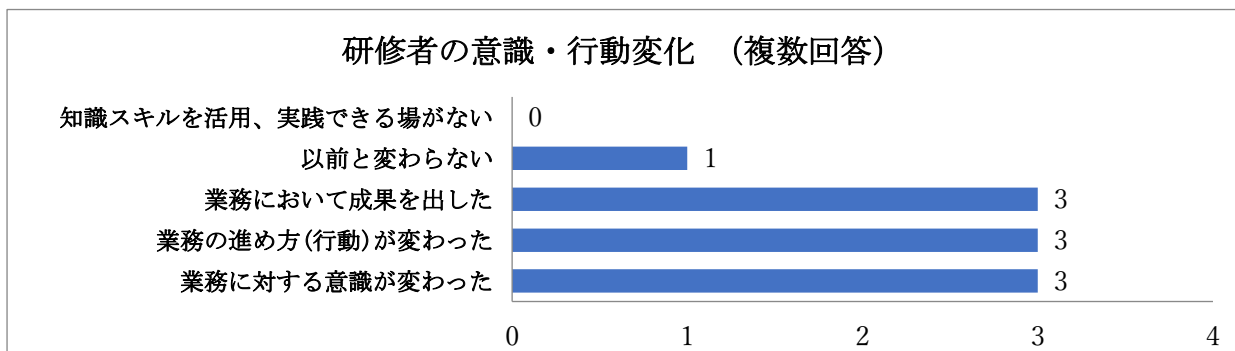
大いに活用している	1
活用している	4
あまり活用できていない	1
全く活用できていない	0



<実践や実務で活用できていること>

- ◆ これからノウハウの資料を作成し、読本、マーケットや特徴など様々な分野を1冊にまとめた冊子を造り、勉強会を開催していく予定。
- ◆ すでに学んだ技術を生かして日々の営業を行っている。
- ◆ 海外へアプローチをかける際、今回の研修で学んだことを活かしながら行っている。
- ◆ 学んだ技術を体験以外に本番にも取り入れている。
- ◆ 技術的な面での改善とあわせ、事前の情報再確認の徹底、ヒアリングを重視し、詳細な説明を行う等でリスクを減らしていく取組みをした。

④研修者の意識・行動変化（複数回答）



<具体的な変化>

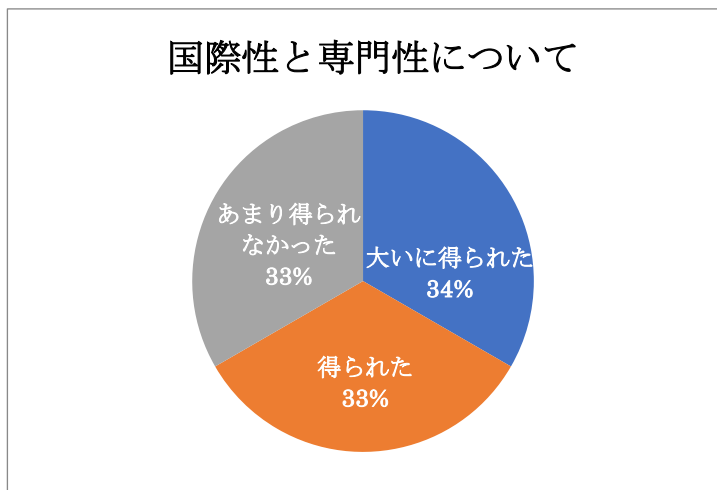
- ◆ すぐに自社で取り組むことができる。主催者は、業務自体は以前と変わらないが、ノウハウが培われたため、今後様々な支援活動の中で、得た知識を活用し、的確なアドバイスができると感じている。
- ◆ サービスに対する技術・知識・感性ともに非常にレベルアップした。専門性を磨く意識も向上し、勉強会などの自己研鑽活動も積極的になった。
- ◆ 自らの施設や沖縄の資源に対し自信が持てるようになった。但し課題に関しては今後改善でき

るように取り組んでいく。

- ◆ 自分達の技術レベルが分かったので、足りないものが何か知る事が出来た。
- ◆ 海外の状況などが分かり、対応の変化が見られた。言葉が分からなくてもアプリなどを活用しながら積極的に接している。

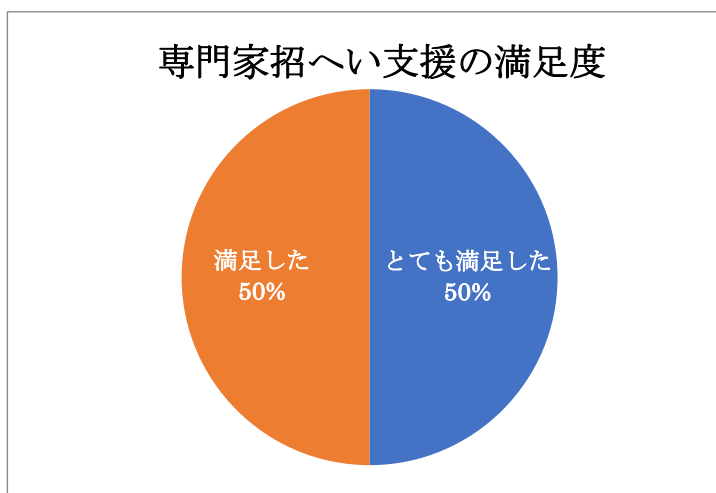
⑤国際性と専門性について

大いに得られた	2
得られた	2
あまり得られなかった	2
全く得られなかった	0



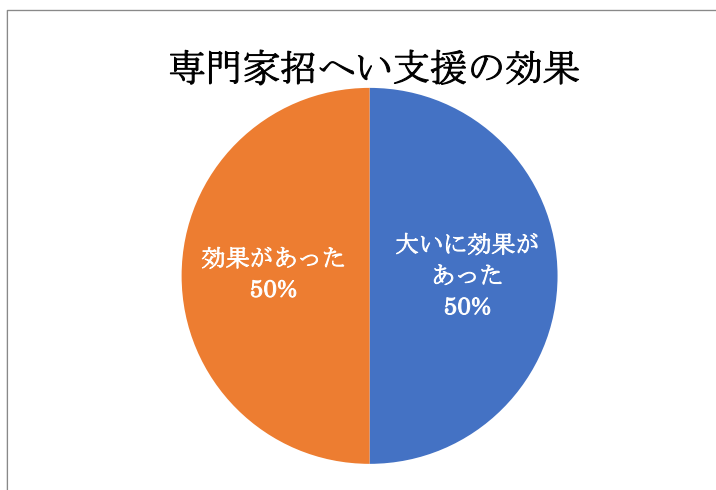
⑥専門家招へい支援の満足度

とても満足した	3
満足した	3
あまり満足できなかった	0
不満足であった	0

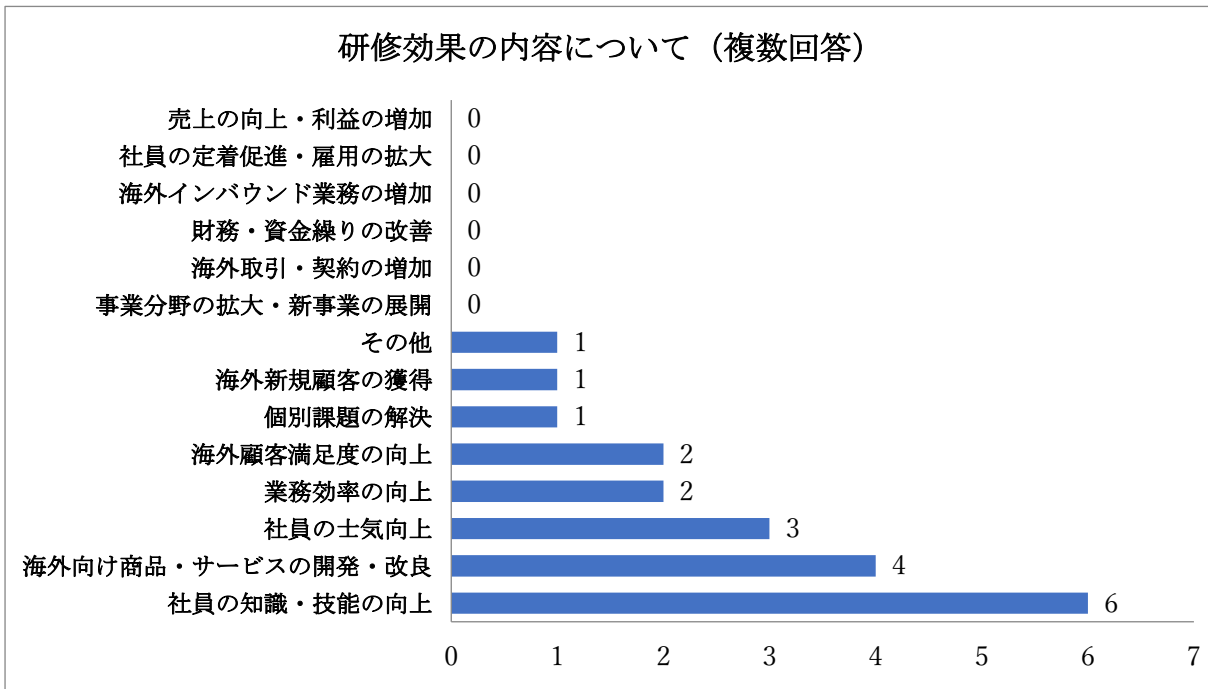


⑦専門家招へい支援の効果

大いに効果があった	3
効果があった	3
あまり効果がなかった	0
効果がなかった	0

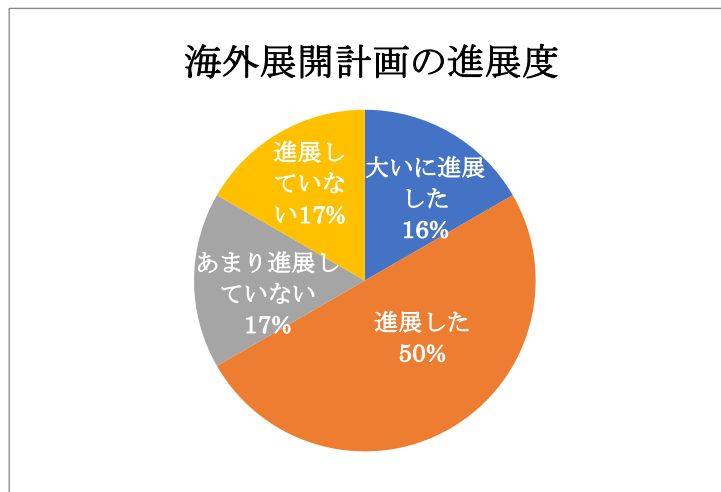


⑧研修効果の内容について（複数回答）



⑨専門家招へい後の海外展開計画の進展度

大いに進展した	1
進展した	3
あまり進展していない	1
進展していない	1
分からない	0



<具体的な進展内容>

- イベント誘致への道が開けた。
- 海外で今年開催されるフェスティバルへの参加依頼を受けた。
- 受入れの拡大について専門家と協議し、協力体制を整えた。

<進展がなかった理由>

- 海外のマーケットで活躍するにはまだ時期が早く、もう少し県内の生産量の拡大と品質の向上を行わないといけないため
- 今はまだ準備段階だが、準備段階としては進展している。

<研修者の意識、社員・組織、外国企業との連携で良かったこと>

- ◆ 外国人専門家との強いパイプができた。
- ◆ 安全対策について学んだ。
- ◆ 海外の状況などより深く理解できた。AI の発達により、クラウド技術を用いた管理など、実際確認したい内容について具体的に、明確に、指導していただいたことがよかった。研修を通して海外の関係機関とより信頼関係を構築することができた。

<人材育成の現状・課題>

- ◆ サービスの技術の習得には時間がかかる。最低でも 1 週間の集中的な研修としないとまとまった技術の習得は不可能である。私どもの分野では優秀な講師は主にアメリカになるため、研修の開催には資金もかかり手配も簡単ではない。さらにスタッフ全員で集中研修となると、研修期間は営業も止めざるを得ないため、資金の負担はさらに増加する。今回の助成金なしではまず不可能な研修であった。研修費用負担が課題。
- ◆ 拡大・周知において、知識を深めていかなければならない。
- ◆ リーダー・マネージャー職の現状として、プレイングマネージャー化している。また 3～5 年目の中間層が少ないため次世代のマネージャー育成が難しい。
- ◆ 事業は始まったばかりで県内に一定の機関と連携ができ、人材の共育ができているが、より安全に対応できるように、県内の受入れ機関の人材共育を継続的に行う必要がある。
- ◆ 現在、どの業種においても人材不足で、特に現場では、人材を 1 ヶ月以上海外に派遣できない現状がある。海外での OJT 研修も短期集中で行えるメニューも作ってほしい。